

京手連

第101号

2021年7月

発行
京都府手話サークル連絡会



目次

コロナ禍 私たちのサークルは、今 ②

○スポーツのパワーを再認識。手話甲子園も支援 八幡男山 1

○活動再開へ盲ろう者の情報保障に悩み 宇治・茶だんご 2

○再開方法を模索。サークルはこころの健康 あすなろ' 82 3

○地域婦人会の手話教室に協力。貴重な活動の機会 丹後 3

○2021年度役員体制 4

コロナ禍 私たちのサークルは、今



②

スポーツのパワーを再認識
～手話甲子園も支援～
男山手話サークル

ゲートボール ろう者に誘われて



ゲートボールコートの雑草整備に汗をかく

かれこれ7年ほど前のこと。ろう者の方からメンバーが足りないとのことで、我々サークル員が誘われ、訳もわからないままゲートボールを始めました。誰もがそうするように、スティックを買い、審判講習を受け、暑い日、寒い日、暇があればコートにむかう日々。

確かにゲートボールは人気がありません。仲間内でケンカをするとかで、今はグランドゴルフ人口が多いそうです。しかし、ゲートボールはゲームとしても面白いし、ゲーム時間は30分と高齢者にピッタリのスポーツ。そして意外なことに、連絡すると好きならろう者は、遠方からでも自転車で京都市内から、はたまた宇治からと、時間かけてでも集まります。スポーツの力……!?

このコロナ禍で試合も延期や中止になり、暇かと思いきや、なんのコート整備があるのです。

何のことかと思われるでしょう。コートは使用しなくなると草が生え、荒れ放題になります。緊急事態宣言にもかかわらず自主的にコートの清掃に行っているのです。

ゴールデンウィークのある日、コートに宇治のろうの方の姿が!? 鍬を振り上げコート一面を掘り起こしているのです。この日以来、

我々はスティックからシャベルに持ち変えて、土方仕事に転じて汗をかくことに……。(写真)

約ひと月半かかってやっとラインが引けるまでになり、久しぶりの練習ができました。ホッ！

(Sさんホントにありがとうございますm(_ _)m)

手話パフォーマンス甲子園をめざす高校生と

そしてもう一つ。これは5年ほど前になりますが八幡高校から「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」にチャレンジし

たいとのことで手話指導の依頼がありました。それ以来、毎年ろうあ協会と共に手話指導にボランティアで行っています。去年はフェイスシールド、今年は緊急事態宣言中であり、マスクで指導。先日、ビデオ撮りを終え、あとは7月末の結果発表待ち。ワクワクドキドキの日々。コロナ禍の中ですが、相変わらずの刺激ある交流を楽しんでいます。(三好)

(初めての参加で予選通過し鳥取に行った生徒が、今年、京都府立聾学校の教員に採用されたとのこと。うれしいニュースでした。)

活動再開を決めたものの 盲ろう者の情報保障に悩み

宇治手話の会「茶だんご」



2年前の例会。手話カルタで楽しみながら学習

私たちのサークルでも、緊急事態宣言の自粛期間中、定例会の中止、再開、中止を何度となく繰り返してきました。

しかし、振り返ってみると緊急事態宣言が解除されたからといって果たして、そのことが定例会や活動の再開とする根拠となりうるのだろうかと考えました。

結果は2度の宣言解除後も状況が変わらないどころか、より感染が拡大し3度目の

緊急事態宣言が発出され、さらに期間延長もされるというのが現状です。

本来ならば手話はソーシャルディスタンスを保つには最適なコミュニケーション手段の一つと言えるのですが、私たちのサークルで熱心に手話の指導をして下さる方たちの中には盲ろう者もおられ触手話を使います。接触感染の恐れが極めて高いことから活動再開の決定がなかなか

決められない状況です。

今回の緊急事態宣言の期間延長を受けて宣言終了日後に再開するという根拠のない再開日決定をやめ、少なくとも高齢者や障害者のワクチン接種が、おおよそ完了する見込みで8月3日としましたが、暫定的な決定です。

以前のように、ろう者も健聴者も早く交流したいですね。(山村)

活動再開できる方法を模索 ～サークルは こころの健康～

手話サークルあすなろ82

コロナ禍で以前のように活動ができなくなって1年以上たちました。「緊急事態」は活動休止、「まん延防止」は活動をする
と決め、児童館の利用にあたり出席者は、
体温、その他の体調不良、海外渡航歴など
毎回提出をすることになりました。

また以前は、10時からのサークルのため10時前に準備をして12時までの2時間を活動時間としていましたが、10時に来て準備を始め11時半に終了し、自分たちが利用した椅子や机を消毒、12時に退館と活動時間は短くなりました。

児童館の学童クラブの「手話クラブ」も
去年の2学期から再開することになり、少しずつではありますが活動ができるようになったと思っていたら2度目の「緊急事態」。また、新年度こそとスタートしたのですが3度目の「緊急事態」で休止が繰り返

返されました。

コロナ禍での活動をどうするのか、サークルメンバーでも意見の分かれるところですが、閉鎖的な生活をせざるを得ない状況でサークルは、顔を合わせ、交流することで“こころの健康”につながる集いの場です。だからこそ、どうやって活動できるのかを話し合い、今年度は、社会見学や講演会をどうやったらできるか模索中です。
(殿西)



地域婦人会の手話教室に協力 貴重な活動の機会

丹後町手話サークル (丹後六町手話サークル連絡会)



6月27日(日)、丹後町間人(たいざ)婦人学級の開校式がありました。地域婦人会が学べる教室という事業に取り組ん

でいて、メニューは読書、園芸、健康、着物着付け、短歌、手話。参加者は約30人で、好きな教室を選びます。その中の手話の指導を丹後町手話サークルが担当。会員少ないゆえ、総力挙げてとなります。

コロナ感染拡大により、開催がたびたび延期となり中止も覚悟していましたが、昨年度に続き実施されることとなりました。

開校式は、婦人会の方が進行を担当され、あいさつ、学級長からの説明や講演。実

は私（サークル代表）は難聴ですが、昨年と同じ開校式は通訳も要約筆記もなくとも問題ありませんでした。ところが今年は、ほとんど内容がわかりません！一人取り残されて、とても辛かったです。



代表が手話教室について説明

というのは、今年はコロナ対応で、昨年と違う体育館のような広い会場、席と席は離して。しかも今年はみなさんマスク着用。主催者も私も情報保障はなくても大丈夫だろう、との双方の思い込みと準備不足で、聞こえにくい条件が重なってしまったのです。

手話教室の時は、他町の聴障者と聴言センター職員にも手伝ってもらいます。受講の皆さんは熱心で、特に手話歌に興味があるようです。どうしてもおしゃべりが多く、パワーをもう少し学習に向けてもらえたら、と心でつぶやいています。

新型コロナの関係で、婦人会の教室を除くと、昨年度はサークル活動は2、3回でした。貴重なサークルとしての取り組みです。聴覚障害、手話に関心と理解を持ってくれる女性が増えることを期待して、指導に取り組んでいきます。（中江）

●聞いてください

～久しぶりの補聴器申請をめぐる～

もう一つ、コロナとは関係ないですが、お許しください。

私事ですが、30年以上ぶりに補聴器を着けることになりました。今、病院で、意見書を書いてもらってる最中です。ところが耳鼻科の医師は、患者には真正面に向き合っては話しません。パソコンに向いたままです。その上マスクしてるので聞きづらいです。先生が言ったことを、看護師さんが耳元で復唱してくれるので助かります。

聴力検査して意見書を書いてもらう場面。その医師、補聴器のことは詳しくないのです。補聴器業者で補聴器を適切なものを選んでもらってから意見書を書く、と言うのです。逆ですよ。聴言センターに相談し、直接話してもらって、なんとか理解してもらえました。

意見書を書いてもらう医師について。最近の運用は常勤医に限るとなっているのです。医療過疎の京丹後市では厳しいです。非常勤であれば選択肢が広がるのですが…。

いろいろと面倒に直面している久々の手続きに、うんざりしています。（中江）

2021年度 役員体制

書面議決で役員が承認され、今年度の運営体制が決まりました。よろしくお願いします。

○会 長 永浜 治夫

○副 会 長 山崎 玲子

〃 徳永 泰子

〃 中瀬 陽子

○北部ブロック長 永浜 治夫

○口丹ブロック長 中野 保雄

○乙訓ブロック長 坂 真紀子

○京都市内ブロック長 久保村 利恵子

○山城ブロック長 松本 直子

○事務局長 仲松 太樹

○事務局次長 高瀬 るみ子

○会 計 山本 よしみ

○理 事 山岸 登美子

渡辺 久美、中筋 郁子

三好 栄子、山崎 邦夫

各ブロック長